

取引先との業務効率化とサプライチェーンの標準化へ

森永乳業、Peppol 活用によるデジタルインボイス実運用を拡大

～TKC、ワークスアプリケーションズとの異なるサービス間連携を実現～

森永乳業グループでは、2019年策定の「森永乳業グループ10年ビジョン」の達成に向け、経営基盤を一層強化するため、デジタル技術の活用、DX（Digital Transformation）の取り組みを進めています。

その一環として、森永乳業株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 CEO：大貫陽一、以下「森永乳業」）は、株式会社TKC（本社：栃木県宇都宮市、代表取締役社長：飯塚真規、以下「TKC」）および株式会社ワークスアプリケーションズ（本社：東京都千代田区、代表取締役 CEO：秦修、以下「WAP」）と連携し、国際標準規格「Peppol（ペポル）」を活用したデジタルインボイスの継続的な送受信を実取引で開始しました。

森永乳業は、TKC、WAPと協力することで、異なるサービス間でのデジタルインボイス連携を実現し、今後は取引先との接続拡大を通じて請求書業務の効率化とバックオフィス改革を推進し、サプライチェーンの標準化への貢献を目指します。

【実施の背景】

森永乳業は、請求書業務のペーパーレス化と経理業務の効率化を進めています。単に紙を電子化するだけでなく、受領したデータを後続業務にも活用することで、請求書業務全体の変革を目指しています。

【取り組み内容】

今回、TKCが発行したPeppol形式のデジタルインボイスを、森永乳業が「HUE デジタルインボイス」で受領・保存し、後続の経理処理に活用する運用を開始しました。

これにより、異なるサービス間でも請求書データをデジタルで連携できることを実取引で確認しました。

【今後の展望】

森永乳業は今後、Peppolに対応する取引先との接続拡大を進めるとともに、請求書業務の効率化やバックオフィス改革を推進してまいります。

以 上